

# セキュリティバンクとの 資本・業務提携について

2016年1月18日

本書には、Security Bank Corporation(以下「Security Bank」という)に関連する予想、見通し、目標、計画等の将来に関する記述が含まれています。

これらは、当社が現在入手している情報に基づく、本書の作成時点における予測等を基礎として記載されています。また、これらの記述のためには、一定の前提(仮定)を使用しています。これらの記述または前提(仮定)は主観的なものであり、将来において不正確であることが判明したり、将来実現しない可能性があります。

このような事態の原因となりうる不確実性やリスクは多数ありますが、これらに関する追加情報については、Security Bankの決算資料をご参照下さい。

なお、本書における将来情報に関する記述は上記のとおり本書の日付(またはそこに別途明記された日付)時点のものであり、当社は、それらの情報を最新のものに随時更新するという義務も方針も有しておりません。

また、本書に記載されているSecurity Bank以外の企業等にかかわる情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性・適切性等について当社は何らの検証も行っておらず、また、これを保証するものではありません。

なお、本書の財務計数はフィリピン基準ベースの数値を使用しています。

# 目次

1. エグゼクティブ・サマリー	4
2. セキュリティバンク概要	5
3. 取引概要	7
4. 戦略的意義	8
5. フィリピンの市場としての魅力	10
6. なぜセキュリティバンクか	12
Appendix	18

# 1. エグゼクティブ・サマリー

- 本件は、三菱東京UFJ銀行(以下、BTMU)が、フィリピンの地場商業銀行であるSecurity Bank Corporation(以下、セキュリティバンクまたはSecurity Bank)の約20%相当の株式を取得し、セキュリティバンクと資本・業務提携する案件
- BTMUは、セキュリティバンクの株式取得とともに、2名の取締役を派遣し、セキュリティバンクを持分法適用会社とする予定
- セキュリティバンクは、フィリピンにおいて民間銀行としては第6位の資産規模を持ち、高い成長性と収益性、健全な財務内容を有する。フィリピン上位行の中では珍しい地場大手財閥グループに属さない独立系の銀行
- BTMUにとって、本件の戦略的意義は以下の通り
  - ① 近年高い成長を続けるフィリピンにおいて、より幅広い分野での金融サービス提供体制を整備し、現地における顧客対応力を抜本的に強化
  - ② リテール業務や中堅中小企業取引も手がけるセキュリティバンクへの出資を通じた事業領域の拡大によって、フィリピンの経済成長を幅広く取り込み
  - ③ セキュリティバンクが進める成長戦略を加速させ、同国トップクラスの銀行への飛躍をサポートすることで、BTMU及びMUFGのフィリピンひいてはアジアにおけるプレゼンスを拡大
- BTMUは、アジアを「第2のマザー・マーケット」と捉え、タイにおけるアユタヤ銀行(Krungsri)の買収、ベトナムにおけるヴィエティンバンクへの出資等、アジアにおける事業基盤の拡大を通じて、国内外のあらゆる顧客向け金融サービス提供力の向上に努めており、本件は、そのアジア戦略の一環
- 本件の取引完了は、関係当局の認可、その他契約上の諸条件の充足を前提として、2016年前半の予定

## 2. セキュリティバンク概要(1)

### 基本情報

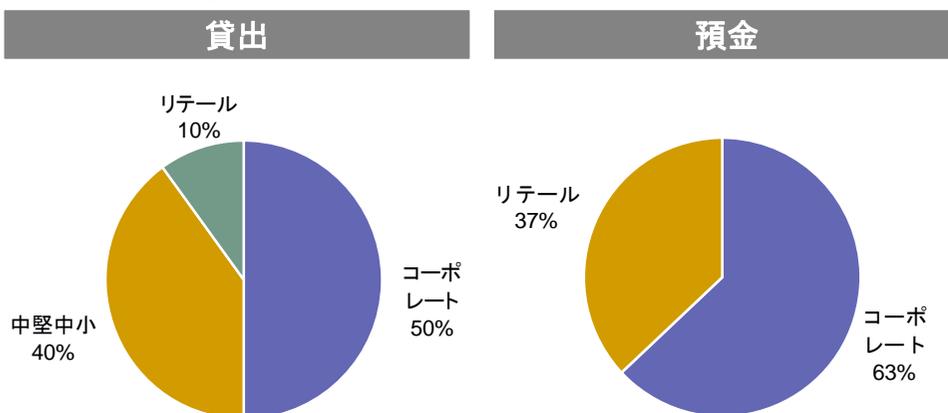
- 商号: Security Bank Corporation
- 設立: 1951年
- 代表者: Mr. Alfonso L. Salcedo, Jr.  
(President and CEO)
- 上場: 1995年(フィリピン証券取引所)
- 従業員数: 4,014名<sup>\*1</sup>
- 支店数: 262<sup>\*2</sup>
- ATM数: 555台<sup>\*2</sup>
- 時価総額: PHP85,602百万<sup>\*3</sup> (US\$1,814百万<sup>\*4</sup>)
- 外部格付: BB+ / BB (S&P / Fitch)<sup>\*5</sup>

### 主要財務情報

(US\$百万) <sup>*4</sup>	2014	2015 9M / 9月末
<b>PL</b>		
純金利収益	236	192
粗利益	355	304
純利益	152	128
<b>BS</b>		
貸出	4,110	4,596
預金	5,229	5,828
総資産	8,415	10,216

### 貸出・預金の構成

2015年9月末時点



(出所) 会社資料、Capital IQ

### 受賞歴

- **The Banker 2015**
  - Bank of The Year – Philippines
- **Finance Asia 2015**
  - One of the Best Mid-Cap Companies in the Philippines
- **Asiamoney Best Managed Companies Poll 2015**
  - Overall Best Managed Company in the Philippines (mid-cap category)
- **The Asian Banker 2015**
  - Best Branch Innovation Initiative in the Philippines
- **Global Banking & Finance Review 2015**
  - Best FOREX Bank Philippines

<sup>\*1</sup> 2014年12月末時点 <sup>\*2</sup> 2016年1月13日時点 <sup>\*3</sup> 2015年12月29日時点  
<sup>\*4</sup> 為替レート: US\$1.00 = PHP47.2 <sup>\*5</sup>: 自国通貨建長期格付

## 2. セキュリティバンク概要(2)

### フィリピン銀行業界概観(総資産上位10行、US\$百万\*1)

# 銀行名	総資産*2	純利益*3	ROA*3	ROE*3	時価総額*4	PBR*5	フィリピン国内 支店数*6
1 BDO	41,367	483	1.3%	13.4%	8,109	2.1x	1,018
2 Metrobank	35,123	426	1.4%	14.1%	5,423	1.3x	920
3 BPI	29,875	382	1.4%	13.8%	6,980	2.2x	820
4 LBP (国営銀行)	24,159	268	1.4%	17.2%	N/A	N/A	357
5 PNB	13,845	114	0.9%	6.1%	1,376	0.6x	662
6 RCBC	10,372	93	1.0%	9.2%	979	0.8x	448
<b>7 Security Bank</b>	<b>10,216</b>	<b>152</b>	<b>1.9%</b>	<b>16.3%</b>	<b>1,814</b>	<b>1.6x</b>	<b>258</b>
8 China Bank	10,002	108	1.1%	9.9%	1,461	1.2x	493
9 DBP (国営銀行)	9,853	96	1.0%	11.0%	N/A	N/A	98
10 Union Bank	8,343	178	2.1%	15.8%	1,279	1.1x	286

(出所) 会社資料、Capital IQ

\*1 為替レート: US\$1.00=PHP47.2 \*2 2015年9月末時点 \*3 2014年度 \*4 2015年12月29日時点  
\*5 株価: 2015年12月29日終値、株主資本: 2015年9月末時点 \*6 2015年9月末時点 (Metrobank及びBPIは2014年12月末時点、DBPは2015年12月末時点)

### 3. 取引概要

概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>● BTMUは、セキュリティバンクが実施する第三者割当増資に応じることにより、セキュリティバンク株式(普通株式及び議決権付優先株式を合わせた希薄化後発行済株式の約20%)を取得予定</li> <li>● BTMUは、既存筆頭株主であるDy Group<sup>*2</sup>に次ぐ第2位の主要株主に</li> <li>● BTMUは、2名の取締役を派遣するとともに、セキュリティバンクを持分法適用会社とする予定</li> </ul>		
取得価額	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 普通株式(150,707,778株):一株あたりPHP 245</li> <li>● 優先株式(200,000,000株):一株あたりPHP 0.10</li> </ul>		
出資総額	<ul style="list-style-type: none"> <li>● PHP 36,943百万 (US\$783百万<sup>*1</sup>)</li> </ul>		
バリュエーション		2015年9月末	増資後
	セキュリティバンク普通株式数	602,831,109株	753,538,887株
	Implied P/BV	2.8x	2.1x
	一株あたり純資産	PHP86.77	PHP118.42
スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 関係当局の認可、その他契約上の諸条件の充足を前提として、2016年前半に取引完了の予定</li> </ul>		

\*1 セキュリティバンクの名誉会長であるFrederick Y. Dy氏を中心とする株主グループ

\*2 USD = PHP47.2

## 4. 戦略的意義(1)

### 現地顧客向け金融サービス体制の抜本的強化

- フィリピン経済は近年高い成長を実現。約1億人という人口を背景に、長期的な成長ポテンシャルも高い
- 銀行セクターでは、法律が改正され、外国銀行に対する参入規制が緩和されたことから、今後の競争激化を予想
- かかる状況下、更なる成長が期待されるフィリピンにおいて、優良地場銀行であるセキュリティバンクへの出資により、BTMUはリテール分野を含むより幅広い分野での金融サービス提供体制を構築し、顧客対応力を抜本的に強化

### フィリピンの成長取込み

- 金融サービスの社会への浸透度が相対的に低いフィリピンでは、銀行セクターの将来的な事業拡大余地が大きい
- 経済の発展に伴い、法人向けの金融サービスに加えリテール向けの金融サービスの発展も見込まれる
- セキュリティバンクは、大企業取引に加えて、BTMUが現在展開していないリテール業務や中小企業取引も手掛けており、出資を通じた事業領域の拡大により、フィリピン及び同国銀行セクターの成長を幅広く取り込む

### BTMU及びMUFGのプレゼンス拡大

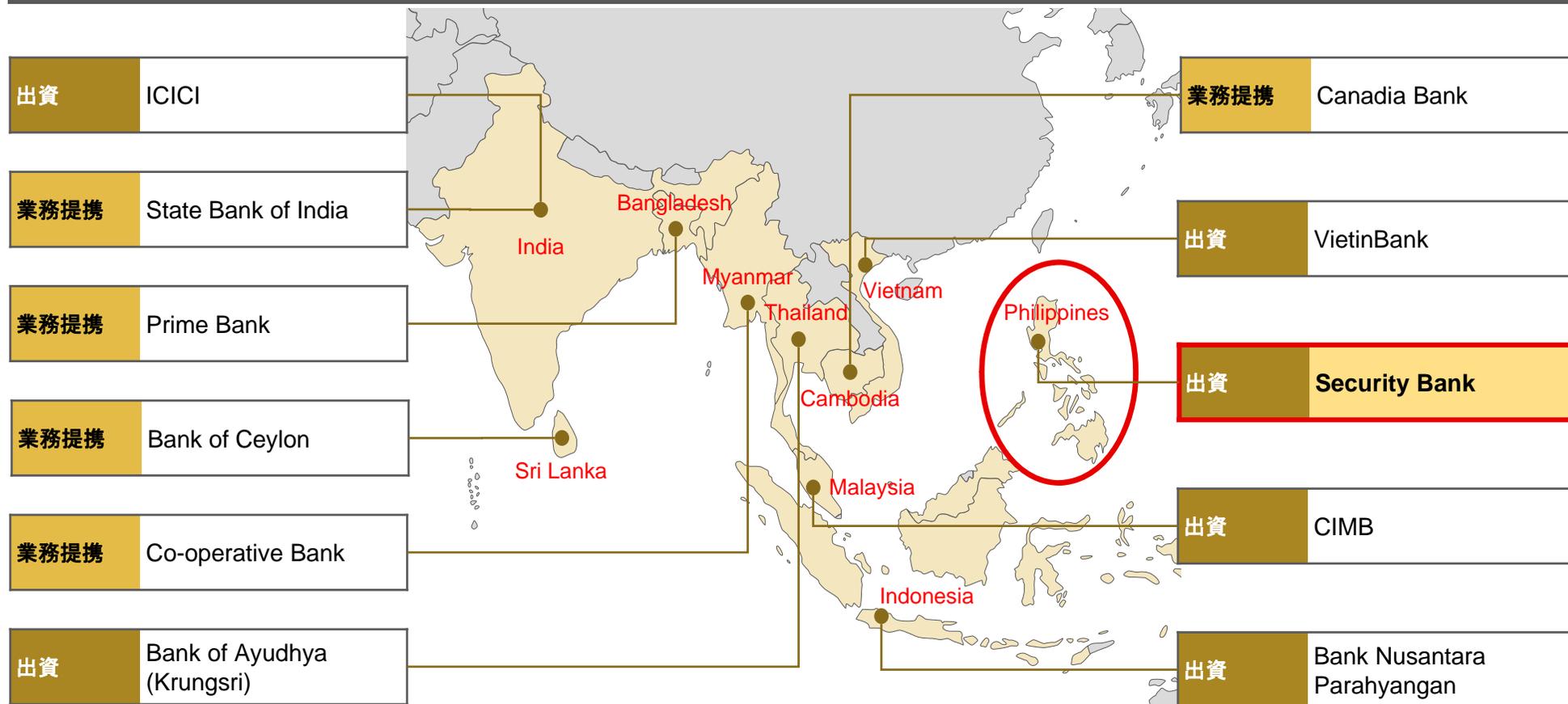
- セキュリティバンクにとって、BTMUとの戦略的提携関係を活かして、中堅銀行の中の1行から大手行へ飛躍することが本件の狙い
- BTMUは、資本提供、取締役及び出向者派遣、並びにBTMU及びMUFGが有するノウハウの提供を通じて、セキュリティバンクが進める成長戦略を加速させ、同国トップクラスの銀行への飛躍をサポートすることで、BTMU及びMUFGのフィリピンひいてはアジアにおけるプレゼンスを更に拡大

## 4. 戦略的意義(2)

### BTMUのアジアにおける出資・提携戦略

- BTMUは、拠点ネットワークの拡大に加えて、アジアの主要な金融機関との出資・提携を通じた地場ネットワークを形成
- 出資・提携戦略の推進によって、地場ネットワークの活用による顧客サービス拡充、アジアの成長取込み、及び当局関係強化等の効果を追求
- セキュリティバンクとの資本・提携関係を通じ、アジアにおける有望市場の一つであるフィリピンにおいて確固たる事業基盤を構築するとともに、アジアにおけるネットワークに更に強化

### BTMUの東南アジア及び南アジア地域における地場金融機関との主な出資・業務提携関係

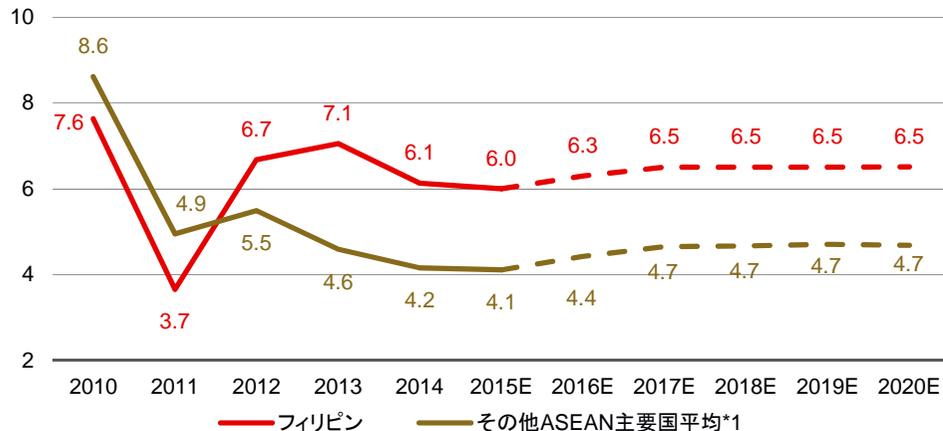


# 5. フィリピンの市場としての魅力(1)

個人消費主導で高成長を持続するマクロ経済。ASEAN第2位の人口大国であり今後のポテンシャルも高い

## 堅実な経済成長

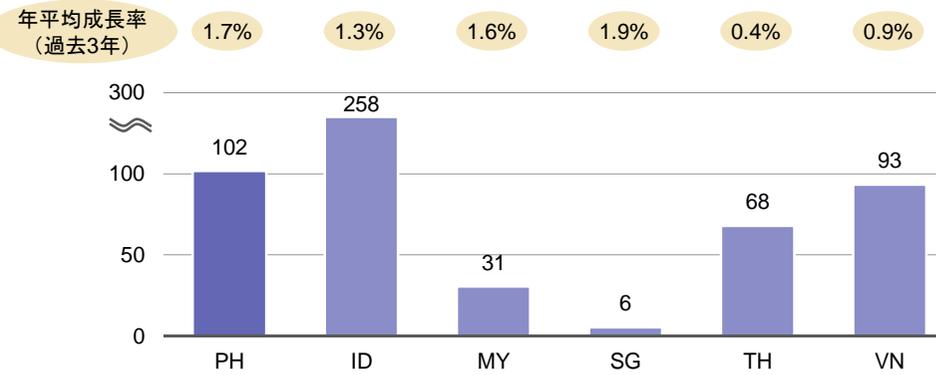
実質GDP成長率(%)



(出所) IMF

## ASEAN第2位の人口大国\*2

各国人口(2015年予想、百万人)



2014年平均年齢(歳)	PH	ID	MY	SG	TH	VN
	23	29	28	36	36	30

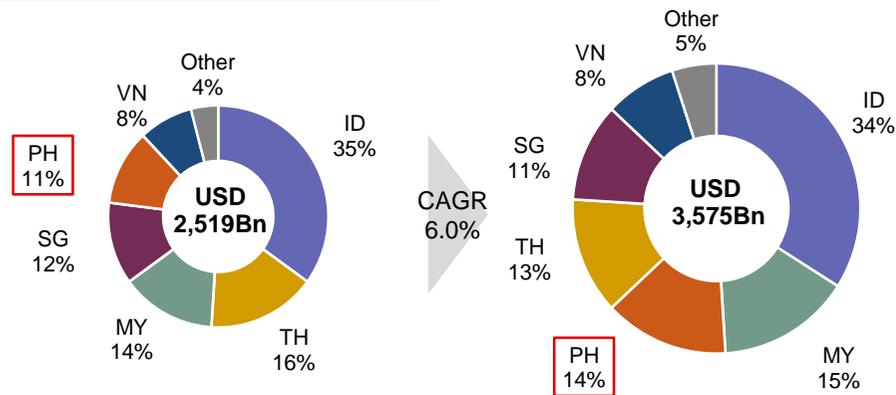
(出所) Global Insight, Euromonitor

## 将来的にASEAN第3位の経済規模となる見込み\*2

名目GDP

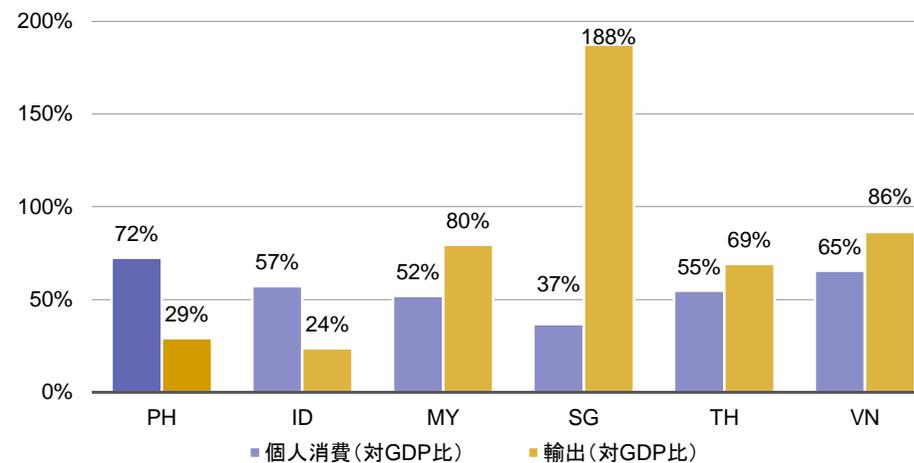
### 2014実績

### 2020予想



(出所) IMF

## 個人消費が中心の経済構造\*2



(出所) Euromonitor

\*1 インドネシア、マレーシア、シンガポール、タイ、ベトナムの平均値

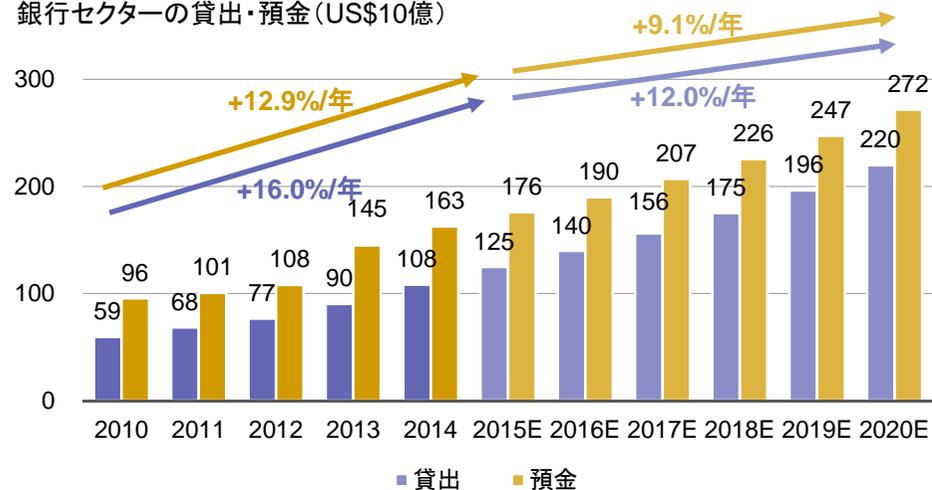
\*2 PH: フィリピン、ID: インドネシア、MY: マレーシア、SG: シンガポール、TH: タイ、VN: ベトナム

## 5. フィリピンの市場としての魅力(2)

着実な拡大が続くも、サービス浸透率は依然低く、更なる拡大余地が大きい銀行セクター

### 着実な貸出・預金の拡大

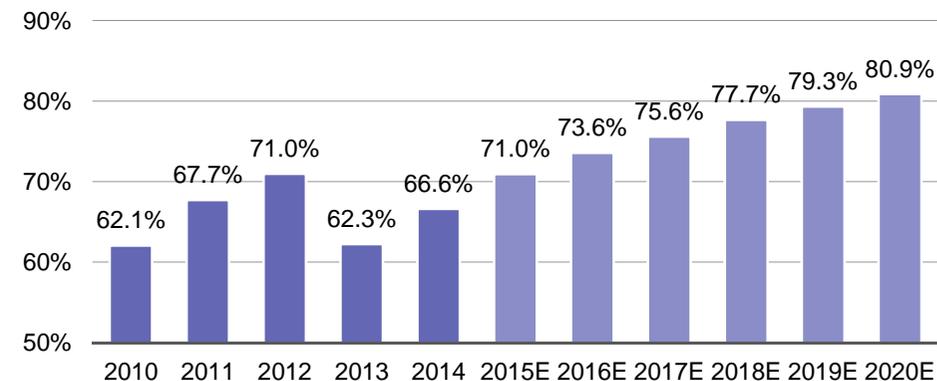
銀行セクターの貸出・預金 (US\$10億)



(出所) フィリピン中銀、BMI

### 預金の伸びに支えられた十分な貸出余力

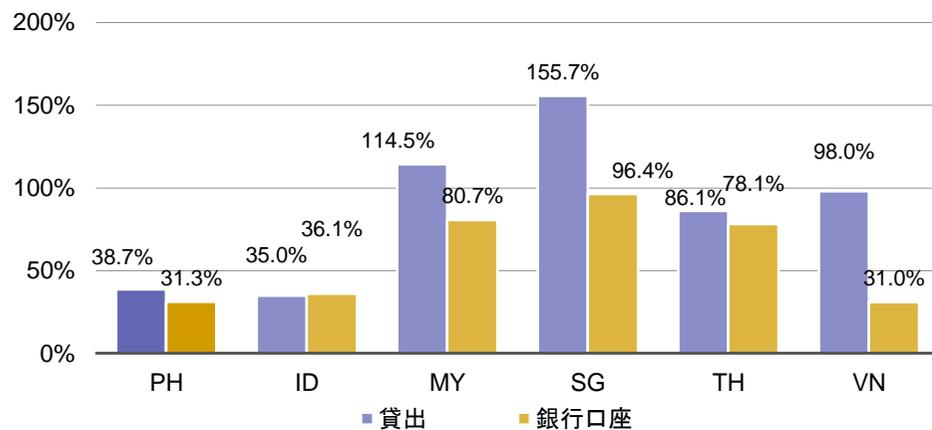
銀行セクターの預貸率



(出所) フィリピン中銀、BMI

### 相対的に低い銀行サービス浸透率\*1

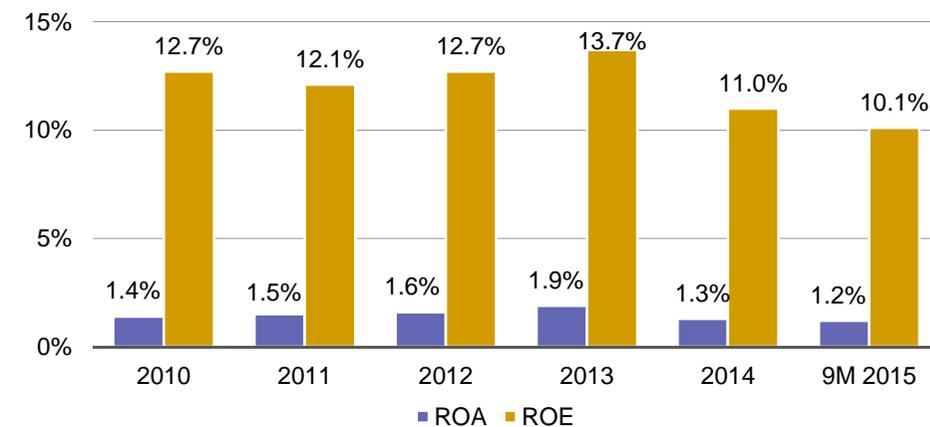
銀行サービス浸透率\*2 (2014年)



(出所) フィリピン中銀、BMI

### 安定的な収益性

銀行セクターのROA・ROE\*3



(出所) 会社資料

\*1 PH: フィリピン、ID: インドネシア、MY: マレーシア、SG: シンガポール、TH: タイ、VN: ベトナム

\*2 貸出: GDPに対する貸出額の割合、銀行口座: 15歳以上人口に対する銀行口座数

\*3 フィリピンにおける業務内容に応じた銀行の分類上で、ユニバーサルバンク及びコマースバンクに分類される銀行の数値(フィリピン中銀データ。2015年9月末時点)

## 6. なぜセキュリティバンクか(1)

### セキュリティバンクの強み

#### 経営陣・従業員

- 堅実な経営方針を持つオーナー及び会長
- フランチャイズ拡大を実現させた実績ある経営陣
- 目標達成への強いコミットメント

#### 事業

- 独立系であることを活かした大企業取引
  - 財閥に属さない独立系の銀行であるため、どの財閥系企業とも全方的に取引が可能
- ニッチな得意分野を有する中堅中小企業取引
  - 成長性の高い華僑系フィリピン企業との取引に圧倒的な強み(地場コミュニティに浸透)
- 今後の収益源として期待されるリテール取引
  - 拠点網の拡張により、今後の業務拡大に向けた基礎を構築
  - リテール業務経験豊富なCEOの下での更なる拡大に期待

#### 財務内容

- 高い収益性: ROE16.3%\*1(業界平均\*211.0%)
- 低い経費率: 経費率47.3%\*1(同61.2%)
- 健全な資産: 不良債権比率(ネットNPL比率)1%未満を維持

\*1 2014年実績

\*2 フィリピンにおける業務内容に応じた銀行の分類上で、ユニバーサルバンク及びコマースバンクに分類される銀行の数値(フィリピン中銀データ。2015年9月末時点)

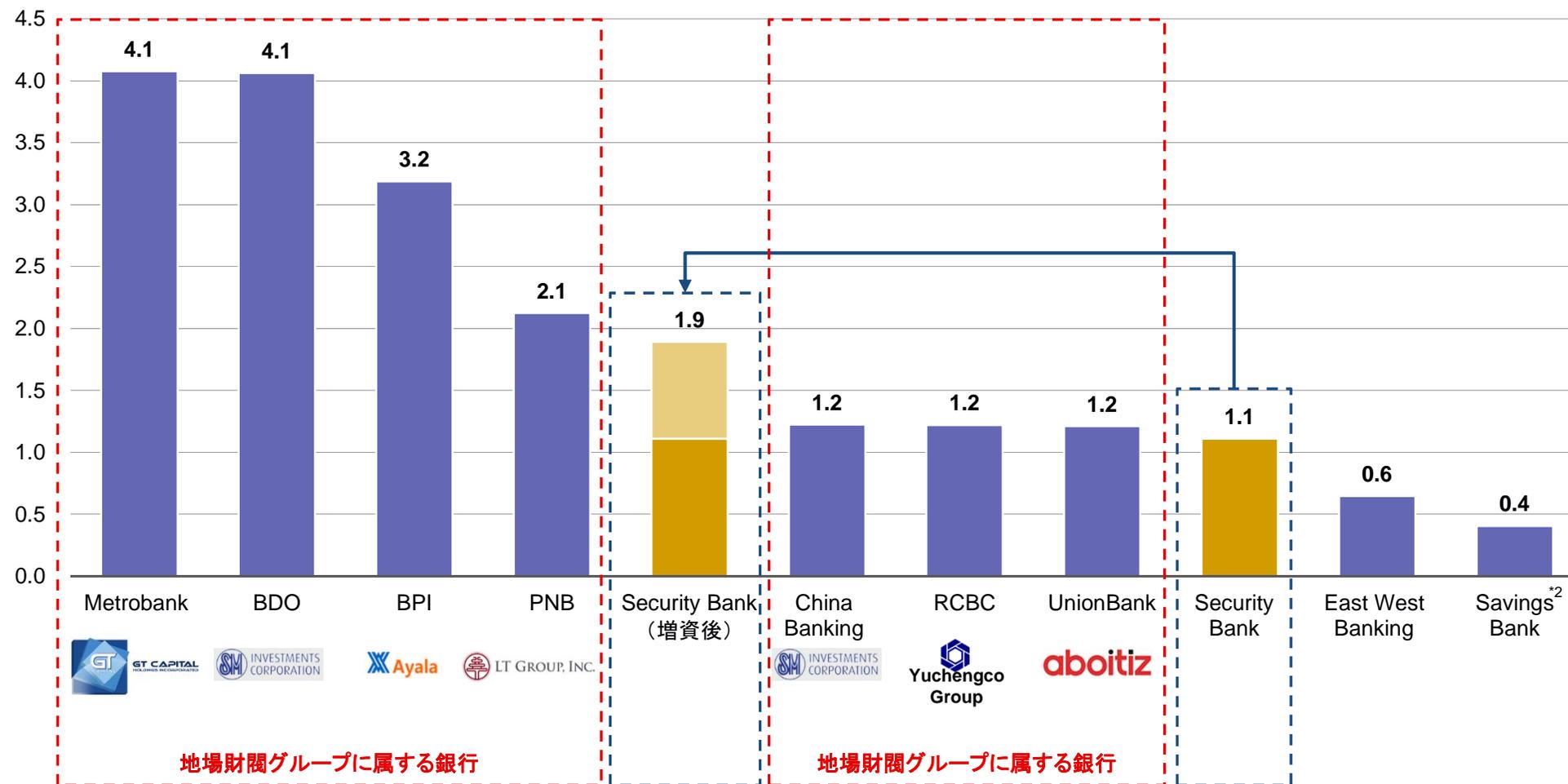
## 6. なぜセキュリティバンクか(2)

セキュリティバンクにとって中長期的な成長のために必要となる資本をBTMUが提供

### BTMUの出資によって規模的に大手3行に次ぐ地位へ押し上げ

本件後、純資産<sup>\*1</sup> (2015年9月末基準)

US\$10億

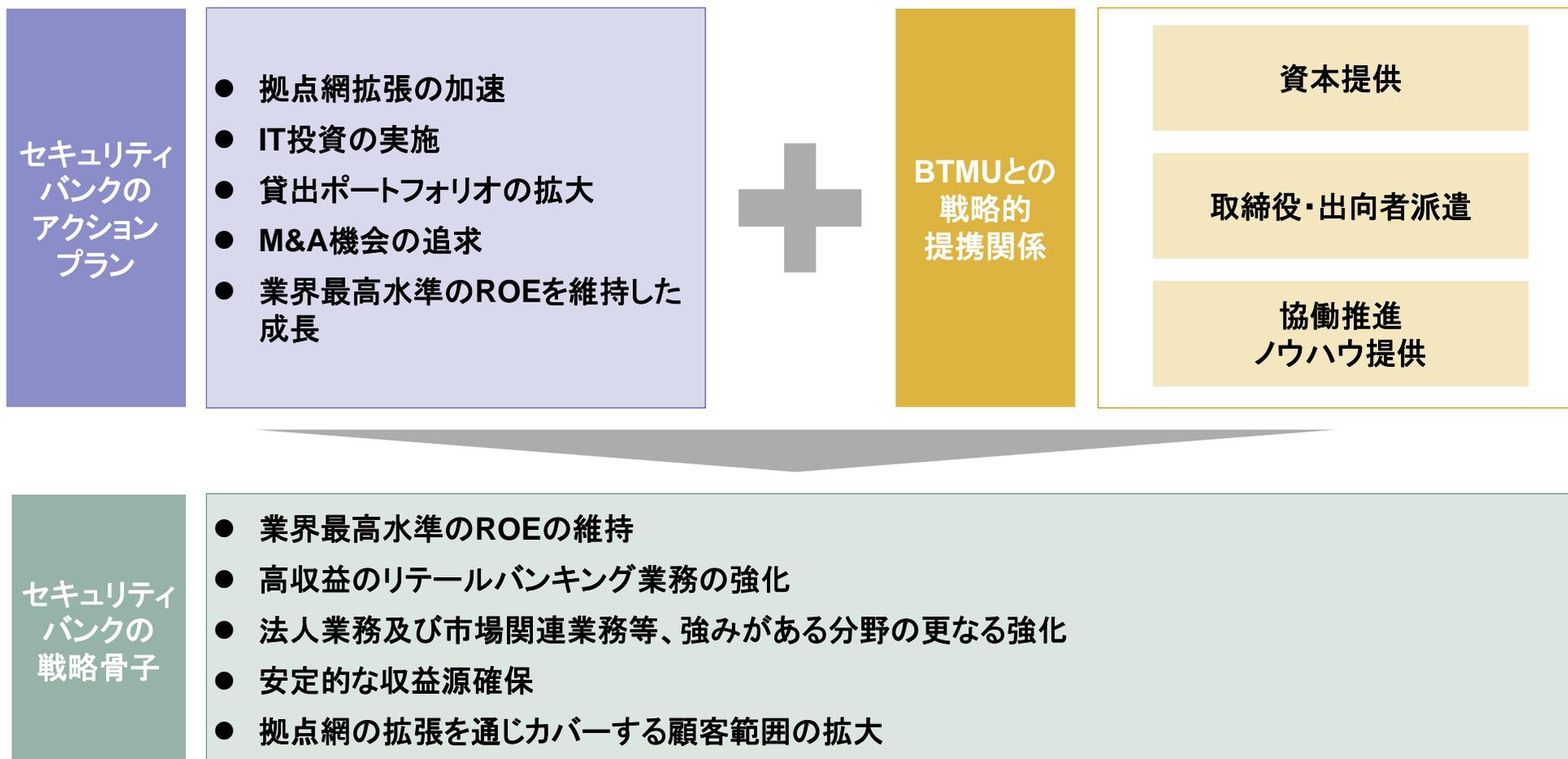


\*1 為替レート: US\$1.00 = PHP47.2

\*2 2015年6月末時点

## 6. なぜセキュリティバンクか(3)

### BTMUとの戦略的提携関係を活かした成長戦略の加速



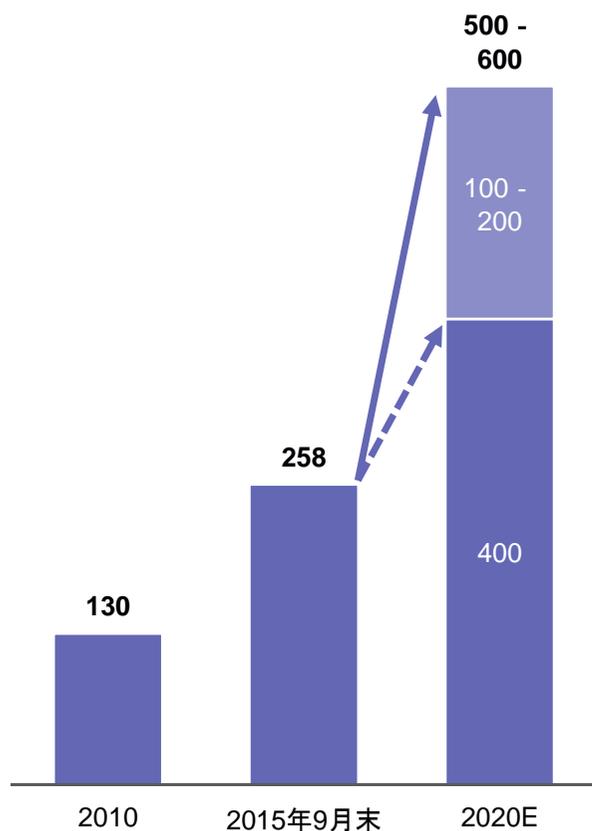
BTMUとの戦略的提携関係を活かし、フィリピンにおけるトップクラスの銀行へ

## 6. なぜセキュリティバンクか(4)

### セキュリティバンクが目指す中長期的目標

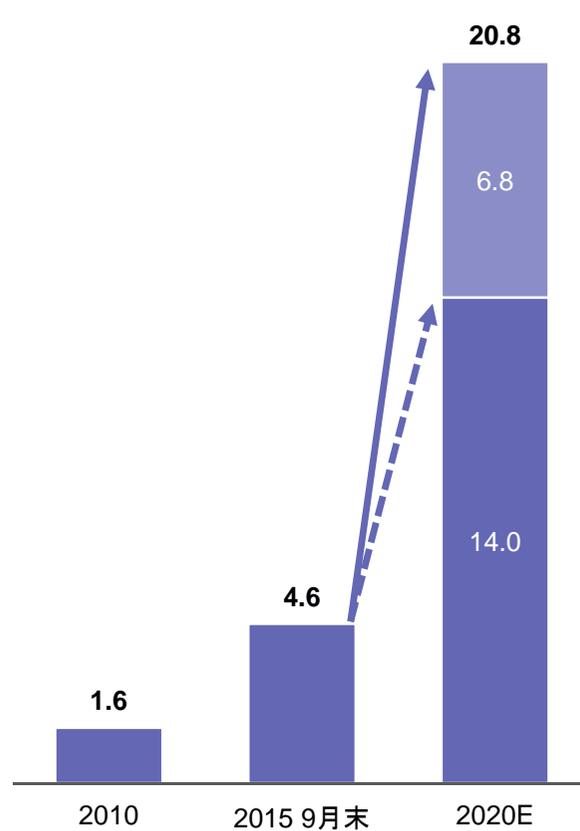
#### 支店網拡張

支店数



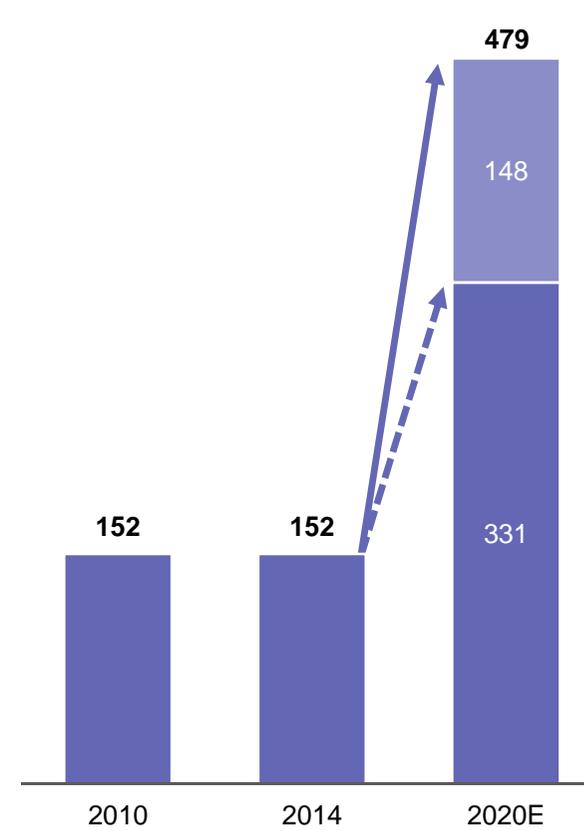
#### 貸出成長

US\$10億\*1



#### 純利益成長

US\$百万\*1



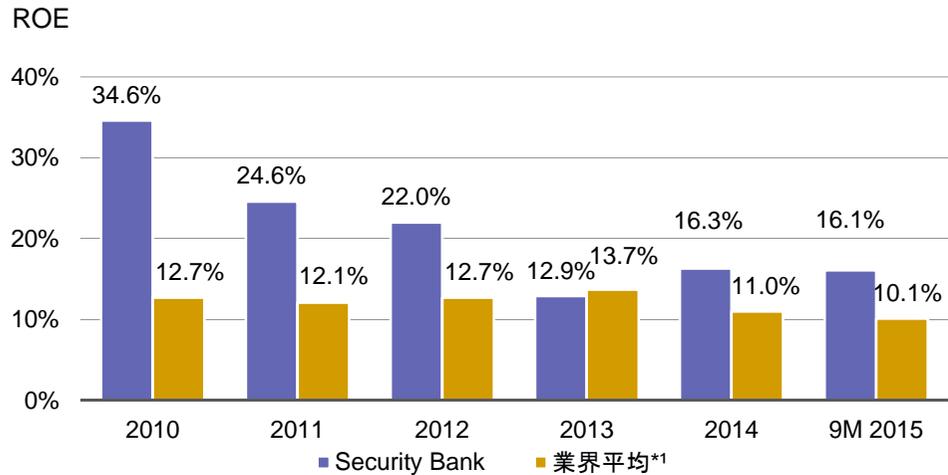
■ 本件前目標 ■ 本件後目標

ROEは増資後3~4年で15%前後まで回復

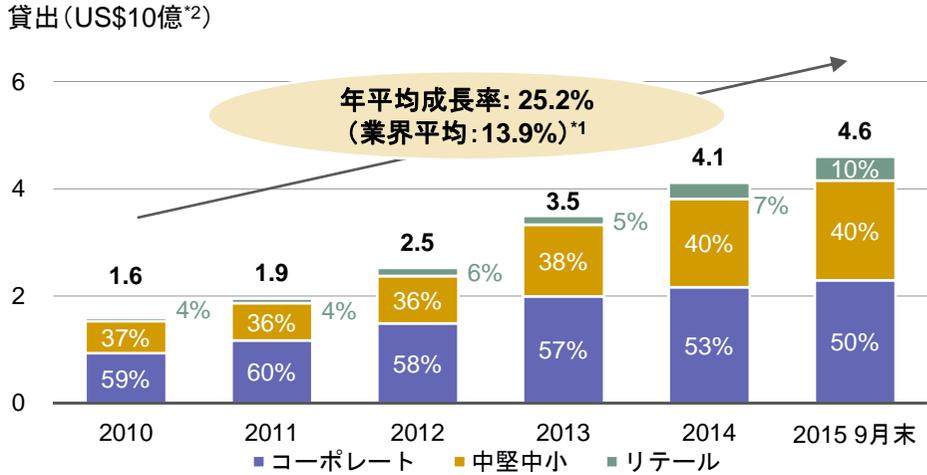
# 6. なぜセキュリティバンクか(5)

高水準のROEを維持しながら、業界平均を大きく上回る貸出・預金の伸びを達成

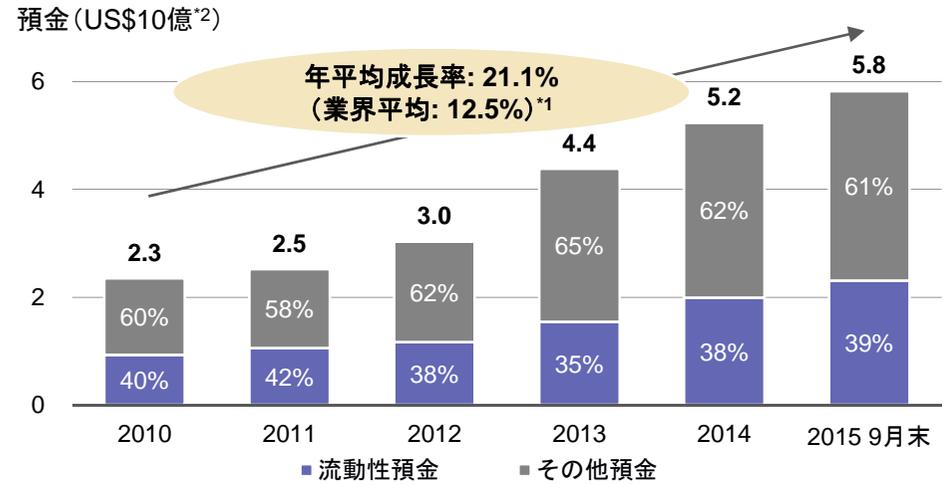
## 業界最高水準のROE



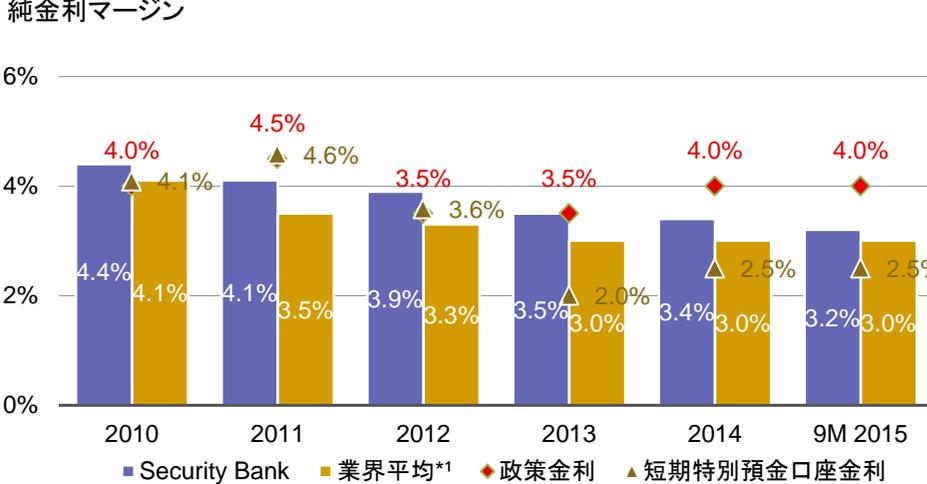
## 業界平均を上回る貸出の伸びとリテール業務の拡大



## 低コスト預金増強を中心とした業界平均を上回る預金の伸び



## 金利低下局面でも一定の金利マージンを確保



(出所)会社資料、フィリピン中銀

\*1 フィリピンにおける業務内容に応じた銀行の分類上で、ユニバーサルバンク及びコマースバンクに分類される銀行の数値 (フィリピン中銀データ。2015年9月末時点)  
 \*2 為替レート: US\$1.00 = PHP47.2

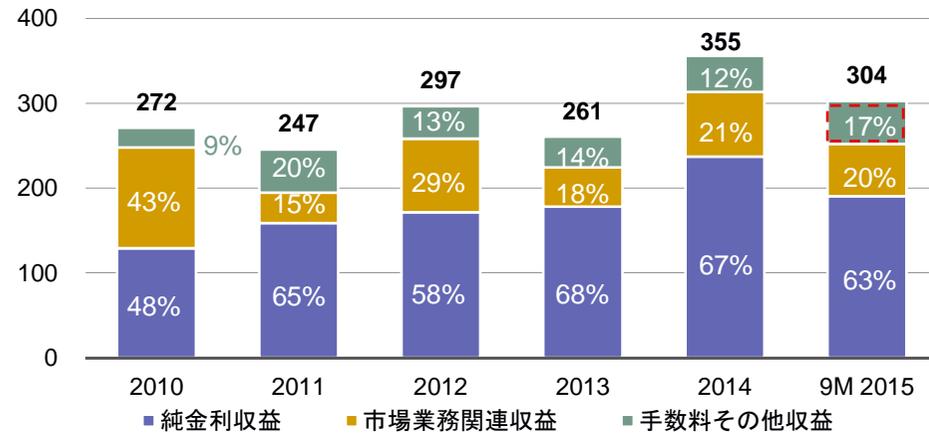


# 6. なぜセキュリティバンクか(6)

収益構造の改革に取り組みつつ、費用を抑制し、資産及び資本の健全さを維持

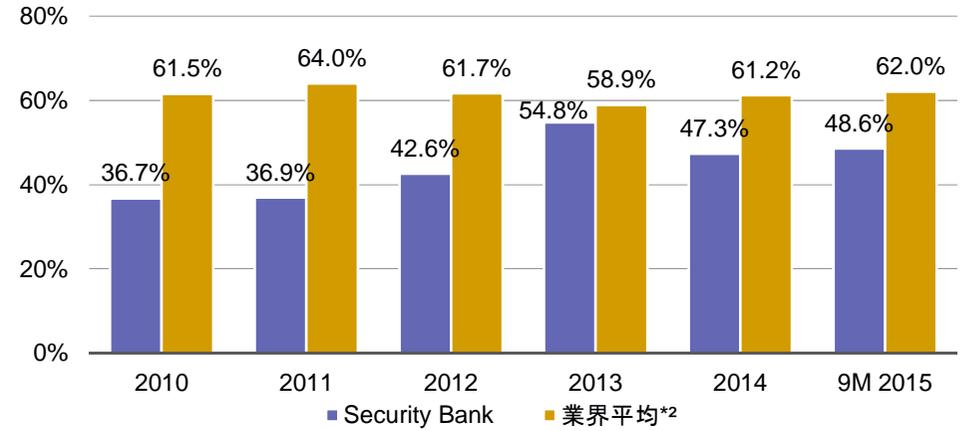
## 手数料収益の貢献が増加

粗利益(US\$百万\*1)



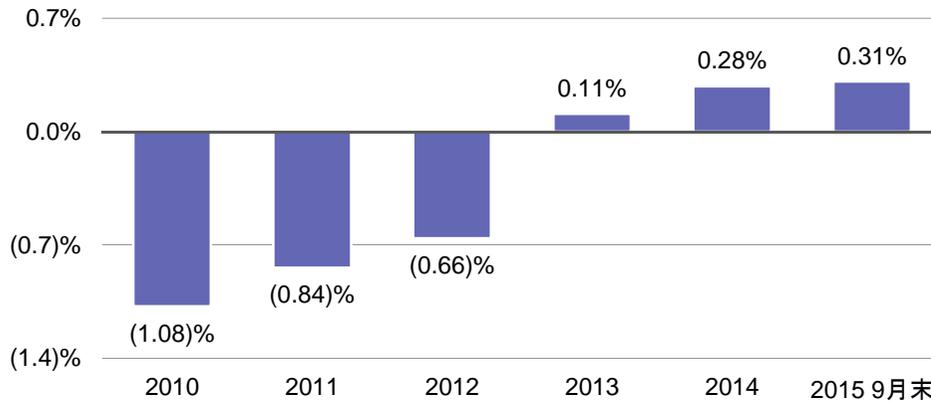
## 効率的な費用構造

経費率



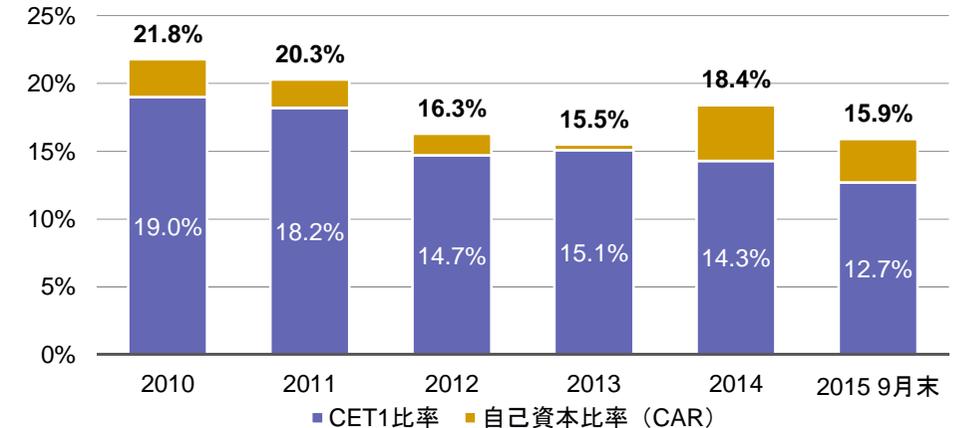
## 高い資産の健全性

不良債権比率(ネットNPL比率\*3)



## 安定的な資本力

自己資本比率



(出所)会社資料、フィリピン中銀

\*1 為替レート: US\$1.00 = PHP47.2

17 \*2 フィリピンにおける業務内容に応じた銀行の分類上で、ユニバーサルバンク及びコマースバンクに分類される銀行の数値(フィリピン中銀データ、2015年9月末時点)

\*3 フィリピン中銀が、2013年1月より、当該比率(総貸出に対する、総不良債権額から一定の貸倒引当金を差し引いた額の割合)を、不良債権を計測する補足的な方法として紹介しており、セキュリティバンクはこれに従って同比率を開示



---

# Appendix

# セキュリティバンク – 主要財務指標

US\$百万 <sup>*1</sup>	2010	2011	2012	2013	2014	2015 9M/9月末	CAGR
<b>損益計算書</b>							<b>10-14</b>
純金利収益	129	160	172	178	236	192	16.3%
非金利収益	143	87	126	83	119	112	(4.5)%
粗利益	272	247	297	261	355	304	6.9%
当期純利益	152	142	159	106	152	128	0.0%
<b>貸借対照表</b>							<b>10-15 9月末</b>
貸出	1,578	1,948	2,537	3,501	4,110	4,596	25.2%
預金	2,343	2,528	3,017	4,363	5,229	5,828	21.1%
株主資本	521	637	781	863	993	1,110	17.2%
総資産	3,527	4,560	5,493	7,363	8,415	10,216	25.1%
<b>財務指標</b>							
純金利マージン	4.4%	4.1%	3.9%	3.5%	3.4%	3.2%	-
非金利収益率	52.5%	35.3%	42.3%	31.9%	33.4%	36.9%	-
経費率	36.7%	36.9%	42.6%	54.8%	47.3%	48.6%	-
預貸率	67.4%	77.1%	84.1%	80.2%	78.6%	78.9%	-
ROA	4.9%	3.5%	3.3%	1.8%	1.9%	1.9%	-
ROE	34.6%	24.6%	22.0%	12.9%	16.3%	16.1%	-
不良債権比率(ネットNPL比率)	(1.08)%	(0.84)%	(0.66)%	0.11%	0.28%	0.31%	-
不良債権カバー率	302%	303%	209%	195%	200%	179%	-
CET1比率	19.0%	18.2%	14.7%	15.1%	14.3%	12.7%	-
自己資本比率(CAR)	21.8%	20.3%	16.3%	15.5%	18.4%	15.9%	-
<b>その他</b>							
支店数	130	136	208	244	256	258	-
従業員数	N/A	N/A	3,220	3,591	4,014	N/A	-

(出所)会社資料

\*1 為替レート: US\$1.00 = PHP47.2

## セキュリティバンクとの協働

- BTMUの取引関係を活かした日系企業関連ビジネス機会の捕捉
- 日系企業従業員を対象としたセキュリティバンクのリテール業務拡大
- BTMUのグローバルネットワークとセキュリティバンクのローカルネットワークを活用し、幅広い顧客に高付加価値の金融サービスを提供

